

授業科目名	NGO・NPO 論	単位数	2
担当教員名	坪内俊憲	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	主に開発途上国地域において自然保全、野生生物保全管理分野の国際協力プロジェクトに関わる専門家、コンサルタント業務に従事し、今も国内外の NPO・NGO 設立し運営に携わっている現場型教員として、星槎大学においては共生のための地球行動論、問題解決のための国際協働論、生物多様性と資源利用などの科目を担当。学生を始め広く参加者を募りモンゴル、ボルネオでのスタディーツアーを共生実習として企画・実施している。		
「学位授与の方針」との関係 「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という星槎大学の三つの約束のもと、NGO・NPO について職員として活動してきた人の現場からの話を学び、国際貢献、平和、ボランティア精神、清貧など性善説で語られることが多い NGO・NPO について、社会の事実とは何か理解する目を養い、共生社会を作るために必要な NGO・NPO について自らの考え方を育て、報道に惑わされることなく以下に示す資質能力の獲得を目指します。 A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。 B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。 D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。 E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ			
(1) NGO という貧困ビジネスについて学習する。 (2) 国際協力ボランティアの現実を理解する。 (3) 国連という組織の現実を理解する。 (4) 国際機関、政府、NGO・NPO の関係について考察する。 (5) 日本、国際 NGO・NPO を調査し、関心を高める。 (6) 共生社会構築における NGO・NPO の役割について考える。			
授業の概要			
日本において性善説で語られることが多い NGO・NPO はどのような組織なのか、現場の報告から現実を学習する。国際平和の機関として日本で教えられる国連、国際機関について、実態を経験者から学習			

する。日本における NGO・NPO に対する考え方と国際社会の考え方の違い、国連がどのように NGO、ボランティアを扱っているかの実態について理解し、NGO・NPO に必要なことは何かについて多様な考え方があることを理解する。その理解を基盤にして、世界の NGO、日本の NGO の果たす役割、機能を考察し、公開されている NGO・NPO の情報から、多様な活動があることを理解する。体験者の記録、NGO・NPO の理解に基づいて、共生社会構築における日本、世界の NGO・NPO の役割、求められる活動と成果について自らの考え方の構築を目指すものである。

授業計画

第1回： NGO の三角構造について学ぶ。

第2回： 国際 NGO について学ぶ。

第3回： NGO の経営学について学習する。

第4回： 清貧から抜けられない日本の NGO・NPO の特徴を学習する。

第5回： 国際協力ボランティアの聖域化について学習する。

第6回： 安価な労働力としての国連ボランティアの実態を知る。

第7回： NGO・NPO 職員に必要なのはボランティア精神、あるいは職能か考察する。

第8回： 国連という組織の実態を学習する。

第9回： 日本だからできること、日本の NGO だからできることとは何か、考察する。

第10回： 日本社会、国際社会における NGO・NPO の役割について考察する。

第11回： 日本の NGO の活動をインターネットに公開されている情報を学習する。

第12回： 世界の NGO の活動をインターネットに公開されている情報を学習する。

第13回： 殺害された中村哲医師が代表を務めてきたペシャワール会の考え、活動について学ぶ。

第14回： 国際自然保護連合について公開されている情報を学習する。

第15回： 共生社会を構築するために NGO・NPO が果たさなくてはならない役割、組織に求められる人材、求められ成果について考えを構築する。

科目修得試験

学修内容

第1回～第10回までの学習内容について、テキスト全章を自己学習する。理解を深めるため、参考書も自己学習する。理解したことを基盤として、第11回～15回までの学習内容について、世界、日本の NGO・NPO の活動、人材、実績について参考 URL、他の公開情報を調査し、自己学習する。その理解に基づき、レポート課題をまとめる。NGO・NPO の活動を理解した上で、共生社会とはどのような社会か考察して、その共生社会構築のために NGO・NPO が果たさなくてはならない役割、組織に必要な人材、求められる成果について考えを構築する。

科目修得試験：レポートについても添削指導を受け、レポートに合格したうえで科目修得試験レポート方式を提出する。

教科書

伊勢崎賢治著、「国際貢献のウソ」、ちくまプリマー新書社、ISBN 978-4-480-68847-7

参考文献

- 植村邦彦著、「市民社会とは何かー基本概念の系譜」、平凡社新書、ISBN-13：978-4582855593
- 長坂寿久著、「NGO 発、「市民社会力」、明石書店、ISBN-13：978-4750326498
- 藤井良広著、「金融 NPO—新しいお金の流れをつくる」、岩波書店、ISBN 978-4-00-431084-6
- 藤井厳喜著、「国連の正体」、ダイレクト出版、ISBN 978-4-86622-073-4

参考 URL

- <http://www.peshawar-pms.com/>
- <https://sva.or.jp/about/history.html>
- <http://www.oisca.org/>
- <https://bankwatch.org/>
- <http://www.transrivers.org/>
- <https://miningwatch.ca/>
- <https://www.iucn.org/>
- <http://sarthakshiksha.hatenablog.com/entry/2018/03/04/200000>
- <https://www.loobinc.com/sm01.html>

学生に対する評価

レポート（50％）、科目修得試験（50％）を総合して評価する。